

カニャベラル及びリオ・リンド水力発電増強計画【ホンジュラス】

施策所管局課 国別開発協力第二課

評価年月日 令和7年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	ホンジュラス共和国
(2) 案件名	カニャベラル及びリオ・リンド水力発電増強計画
(3) 目的・事業内容 * 閣議決定日、供与条件などを含む	ホンジュラス北西部のコルテス県において、既設のカニャベラル及びリオ・リンド両水力発電所を改修・増強することにより、同国の再生可能エネルギーによる発電能力を維持・増強し、同国における安定的かつ比較的安価な電力供給を確保し、これを通じて同国の持続的な経済成長及び気候変動の緩和に寄与するもの。 事業内容 ・ 水力発電所の改修及び増強 ・ コンサルティング・サービス ア 閣議決定日：平成27年3月24日 イ 供与限度額：160億円 ウ 金利：0.3%（コンサルティング・サービスについては0.01%） エ 償還（据置）期間：40年（10年） オ 調達条件：一般アンタイド
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	ア 社会ニーズの現状 本事業の計画当初、ホンジュラスの電力需要の増加に対応し、輸入化石燃料への依存を軽減するため、発電原価が安い自主電源の維持・増強が急務となっていた。国全体の水力発電能力の24%を担っていたカニャベラル、リオ・リンド水力発電所が、再生可能エネルギーであり発電原価が安い自主電源として重要な役割を果たしていたが、一部の設備は経年劣化に伴い改修及び増強が必要とされていた。 現在においても、増加する電力需要への対応、輸入化石燃料依存の低減による気候変動リスクの緩和の必要性は高く、両水力発電所の延命及び発電能力増強を通じて電力公社の再生可能エネルギーの自主供給能力を維持・

	増強が必要とされており、本事業への社会的ニーズが認められる。 イ 事業遅延に関する経緯・現状 本事業は、調達方針の変更及び新型コロナウイルス感染症の影響による本体契約締結にかかる契約交渉に時間を要し、事業が遅延したが、カニャベラルは 2021 年 12 月に、リオ・リンドは 2022 年 9 月にそれぞれ契約が締結された。 現在、両発電所とも 2025 年下半期の施工開始に向けて準備が進められており、機材が現地に輸送されている段階である。
(2) 今後の対応方針	本件に関する社会的ニーズが引き続きあり、事業完成後は当初予定どおりの効果が見込まれており、事業の進捗を妨げていた要因は解決していることから、支援を継続する。
3 政策評価を行う過程において使用した資料等	・ 交換公文 ・ 外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 ・ 政策評価法に基づく事前評価書 ・ 国際協力機構の案件検索 ・ 国際協力機構の事業事前評価表 ・ そのほか国際協力機構から提出された資料